

(東証プライム：2296)

※本資料は、2026年6月18日付公表内容の補足説明資料です。

2026年6月18日

登壇者：代表取締役社長 浦田 寛之
取締役常務執行役員 食肉事業本部長 原田 健
常務取締役 経営戦略部長 中尾 周平

01 案件概要

案件概要

- ・ ニュージーランド子会社ANZCOを通じて同国Greenleaを買収
- ・ ANZCOは世界有数の牛肉輸出国ニュージーランドの主力パッカーとして、米国・欧州・アジアへの動物性たんぱく質の供給能力を拡大

Copyright © 2026 ITOHAM YONEKYU HOLDINGS INC. All rights reserved.

■ 案件概要

取得対象	在ニュージーランド食肉事業者 Greenlea Group Limited （以下「Greenlea」）の100%株式
売主	創業家一族
買主	ANZCO Foods Limited （以下「ANZCO」）
取得対価	800百万 ニュージーランドドル（約760億円）
牛処理頭数	年間24万頭（2工場）
業績	2025/9期：売上高 615百万 / 税前利益 59百万 ニュージーランドドル
スケジュール （予定）	2026年6-8月：ニュージーランド当局承認（商務委員会・海外投資局） 2026年8月末：取得完了
当社狙い	Greenlea買収によりANZCOは世界7位の牛肉輸出国ニュージーランドの主力パッカーとしてのポジションを強固にし、米国・欧州・アジアへの動物性たんぱく質の供給能力を拡大



2

浦田：皆さま、本日はお忙しい中、お時間をいただき、誠にありがとうございます。

それでは、私から本件の概要についてご説明いたします。

本件は、ニュージーランドの食肉事業会社である Greenlea Group Limited（以下、Greenlea）の発行済株式 100%を取得する案件です。

売主は創業家一族であり、複数の株主が保有する全株式を取得いたします。なお、取得主体は当社連結子会社である ANZCO Foods Limited（以下、ANZCO）です。

取得価額は 8 億ニュージーランドドル、日本円換算で約 760 億円となります。

Greenlea はニュージーランド国内に 2 つの牛肉処理工場を有し、年間約 24 万頭の牛を処理しています。また、食肉事業に加え、副産物事業も展開しています。

一方、ANZCO は年間約 37 万頭の牛を処理しており、本件の完了後は合計で年間約 61 万頭の処理能力を有することになります。なお、ANZCO は牛肉事業に加え、年間約 230 万頭の羊を処理していますが、Greenlea は牛肉事業を中心とした事業構成となっています。

Greenlea の直近の 2025 年 9 月期の業績は、売上高が約 6 億ニュージーランドドル、税引前利益が約 5,900 万ニュージーランドドルでした。

今後のスケジュールについては、ニュージーランド商務委員会および海外投資局による承認を 2026 年 8 月末頃に取得する見込みです。これらの承認が得られ次第、手続きを完了し、株式取得を実行する予定です。

今回の買収により、ANZCO は世界第 7 位の牛肉輸出国であるニュージーランドにおいて、業界トップクラスの地位に近づくものと認識しております。供給能力の拡大を通じて、グローバル市場における事業拡大や海外需要の取り込みを一層推進できるものと考えています。

私自身、昨年の社長就任以来、当社グループのさらなる成長に向けて、社員に対して三つの重点方針を共有してまいりました。

第一に、既存事業において強みを持つ領域をさらに拡大し、ナンバーワンのポジションを増やしていくこと。

第二に、食肉・食肉加工事業にとどまらず、幅広い食品分野へ事業領域を拡大し、成長の翼を広げていくこと。

そして第三に、海外事業を成長ドライバーとして位置付け、その拡大を加速させることです。

今回の買収は、第三の海外事業拡大戦略を具現化するものであり、海外需要の取り込みとグローバルな成長に大きく貢献する案件であると考えています。

私からの説明は以上です。ありがとうございました。

当社グループ戦略

- ・ 当社は「長期経営戦略2035」で「海外事業の成長加速」を掲げる
- ・ 基礎食糧としての動物性たんぱく質の供給能力向上を基本方針とし、食肉事業を中心にグローバルに生産事業を拡大させる方針

■ 当社グループ戦略



■ 本件の狙い

海外食肉需要の取り込み

- ・ 国内市場が成熟度を増す中、当社グループの中長期的な成長を実現する為には、伸長する海外需要の取り込みが不可欠
- ・ 上流畜産資源は寡占化が進み希少性が高まっており、優良権益を獲得できる機会は限定的

NZ事業の価値向上

- ・ NZの得意とする牧草牛の赤身肉は生産適地が少なく、また低い生産コストによりインフレ耐性が高い
- ・ ANZCOは調達・販売・製造でGreenleaと多くのシナジーがあり、これらの実現を通じてNZ事業の価値を飛躍的に向上

Copyright © 2026 ITOHAM YONEKYU HOLDINGS INC. All rights reserved.

3

中尾： それでは中尾より、本件の詳細についてご説明いたします。資料3ページをご覧ください。

当社は、2024年5月に公表した「長期経営戦略2035」および「中期経営計画2026」において、収益力の持続的な向上と成長投資による利益拡大を通じ、2035年に経常利益500億円を創出できる収益基盤の構築を目指しております。

本ページは、長期経営戦略2035の内容を再掲したものです。その実現に向けて、上段に記載のとおり、「国内バリューチェーン価値の最大化」と「海外事業の成長加速」を成長戦略の両輪と位置付け、それぞれ1,000億円、合計2,000億円規模の投資を計画しております。

今回の案件は、そのうち「海外事業の成長加速」に位置付けられるものであり、投資額は8億ニュージーランドドル、日本円換算で約760億円となります。

本件の戦略的な狙いは、ページ下段に記載のとおり、米国、欧州、アジアを中心とした海外市場における食肉需要の成長を、より確実に取り込むことができる収益基盤を構築することにあります。

加えて、当社の海外事業の中核を担うANZCOの事業基盤をさらに強化するとともに、欧米市場を中心に需要拡大が続く牧草飼育牛肉の供給力を高めることで、ANZCOの企業価値向上につなげてまいります。

続いて、本件買収による業績への影響についてご説明いたします。

先月公表いたしました2026年度の連結業績予想には、本買収による影響は織り込んでおりません。今後、買収会計の影響や取得後の業績見通しなどを精査したうえで、必要に応じて業績予想の修正を検討してまいります。

なお、本中期経営計画期間においては、国内では本年秋に操業開始を予定している三島工場を中心に、約400億円の成長投資を実施する計画です。今回の買収案件を含めると、国内外合わせた成長投資額は約1,200億円を予定しております。

Greenleaの優位性

- ・ ニュージーランドは
1) 安定した気候、2) 隣接する酪農産業からの生体供給、
3) 厳格な防疫体制等を背景に、
サステナブルな食肉生産が可能
- ・ ニュージーランドは生体供給の
季節変動により処理場に繁閑差
が有る為、生体調達力が競争力
に影響
- ・ Greenleaはニュージーランドの
酪農産業一等地の北島ワイカト
地区に2工場を有し、輸出港への
アクセスも良く、高い収益性を
誇る

Copyright © 2026 ITOHAM YONEKYU HOLDINGS INC. All rights reserved.

■ ニュージーランドの優位性

気候	・ 豊富な降雨と肥沃な牧草地を有しており、干ばつ発生リスクが低い
生体供給	・ 世界最大の乳製品輸出国であり、酪農産業から経産牛・仔牛の安定供給を受けられる
防疫	・ 島国としての物理的な隔離、政府の厳格な防疫管理により、 BSE未発生かつ口蹄疫の清浄国
サステナビリティ	・ 牛肉生産のGHG排出量は世界最低水準、在来森林は法律で厳格に管理されている

■ Greenleaの優位性

立地	・ 国内酪農・畜産産業の一等地である北島ワイカト地区に工場を有し、 生体調達に有利 ・ ニュージーランド最大の輸出港である タウランガ港に好アクセス
地域社会との関係性	・ 地域雇用を支えられ、社員の習熟度が高く安定操業可能 ・ 長期にわたる地域農家との強い結び付き
オペレーション	・ 牛肉のみ、輸出中心、自動化された生産プロセス

4

それでは、Greenlea についてご説明いたします。資料 4 ページ上段をご覧ください。

まず、本件投資に至った経緯についてご説明します。

ANZCO の CEO と Greenlea の CEO は、10 年以上にわたりニュージーランド食肉業界で切磋琢磨してきた旧知の関係にあります。その中で、両社は企業文化や事業運営の考え方に共通点が多く、高い親和性を有していることを相互に認識しておりました。

一方で、Greenlea は創業家による同族経営を続けており、将来的な事業承継が経営上の課題となっていました。こうした背景から、ANZCO は以前より関係構築を進めながら協業・提携の可能性を検討しておりましたが、昨年より買収について本格的な協議を開始し、このたび株式取得について合意に至りました。

続いて、両社が事業を展開するニュージーランド畜産事業の特徴についてご説明します。

ニュージーランドは冷涼な気候と豊富な降雨に恵まれた西岸海洋性気候であり、干ばつリスクが比較的 low、家畜の放牧肥育に適した生産環境を有しています。

また、同国の牛肉産業は、発達した酪農産業を背景に安定した生体供給が見込めることに加え、厳格な防疫体制や島国特有の地理的優位性により、家畜伝染病リスクが低いという特徴があります。

さらに、牧草主体の肥育による生産が中心であることから、環境負荷の低減にもつながっており、持続可能性の観点からも高い競争力を有しています。

次に、Greenlea の特徴についてご説明します。

資料下段に記載のとおり、最大の強みの一つは、その優れた事業立地です。同社は、ニュージーランド有数の酪農・畜産地帯である北島ワイカト地方に 2 つの工場を保有しています。同地域は豊富な生体供給基盤を有するとともに、ニュージーランド最大級の輸出港であるタウランガ港にも近接しており、調達・生産・輸出の各面で高い競争優位性を備えています。

また、Greenlea は長年にわたり地域社会との強固な信頼関係を築いており、農家や従業員との密接なネットワークが安定的な原料調達や操業を支える重要な経営資産となっています。

加えて、事業を牛肉に特化することで効率的なオペレーションを実現しており、スリムな経営体制のもとで高い収益性と資本効率を実現しています。

03 案件優位性

シナジー

- ・ ANZCO と Greenlea は、調達・販売・コスト最適化等で多くのシナジーがある

ANZCO と Greenlea のシナジー

調達	・ ANZCO 北島工場は中南部で生体調達しており Greenlea 調達農家と補完性有
販売	・ ANZCO の米国・欧州等の海外拠点を通じて、Greenlea の高品質な牛肉製品を拡販 ・ ANZCO 知見を活用し、副産物を更に収益化
コスト最適化	・ 生産プロセスや物流費を最適化、共通業務を一元化

処理場の所在地



NZ 北島における生体調達エリア



それでは、ANZCO と Greenlea のシナジーについてご説明いたします。資料 5 ページをご覧ください。
ANZCO と Greenlea は、北島と南島、それぞれ異なる地域で強固な事業基盤を築いており、両社の統合によってさまざまなシナジー創出を見込んでいます。

まず、生産・調達面のシナジーです。

北島において、両社を合わせると牛肉処理工場 4 拠点、羊肉処理工場 1 拠点を有する体制となります。
これにより、地域ごとの生体供給状況に応じた調達の最適化が可能となり、工場稼働率の向上につなげることができると考えています。

次に、販売面でのシナジーです。

Greenlea は効率的な事業運営を重視したマーケティング体制を採用している一方、ANZCO は米国、欧州、アジアに販売拠点を有し、高付加価値商品の販売ノウハウと顧客基盤を構築しています。

今回の統合により、Greenlea が生産する高品質な牛肉についても、ANZCO のグローバルな販売ネットワークを活用し、プレミアムを付加した販売拡大を図ることが可能になると考えています。

これらに加え、生産プロセスや物流網の最適化を進めるとともに、管理部門や間接業務などのミドル・バックオフィス機能の統合によるコスト削減も期待しています。

キャピタルアロケーション

- ・財務レバレッジを活用し、成長投資と株主還元を強化
- ・加工食品における工場再編・省人化投資や食肉における運転資金負担の増加により投下資本は拡大
- ・収益基盤の強化を通じて、早期のROE8%・ROIC6%台への回復を目指す

Copyright © 2026 ITOHAM YONEKYU HOLDINGS INC. All rights reserved.

■ キャッシュフロー計画（中計期間 2024～2026年度累計）



■ 投下資本計画（中計期間 2024～2026年度）



6

最後に、当社のキャピタルアロケーションについてご説明いたします。資料6 ページ上段をご覧ください。

まず、中期経営計画期間における資金配分についてです。本件買収を含めた成長投資額の総額は1,560億円となります。また、株主還元については、昨年度に実施した記念配当を含め、累計350億円を見込んでいます。これらを合わせますと、中計期間中に使用する資金は約1,900億円となる見通しです。

一方で、営業キャッシュフローについては、運転資本負担の増加を受けて、中計期間3年間の累計で約600億円を見込んでおります。そのため、必要となる資金との差額である約1,300億円については、有利子負債を活用して調達する方針です。

この結果、2026年度末時点のネットD/Eレシオはおおむね0.5倍程度となる見込みです。

当社はROE8%以上を資本効率の目標として掲げておりますが、今回の資金調達後においても、財務健全性と資本効率のバランスを踏まえると、レバレッジ水準は適切な範囲にあると考えています。

続いて、投下資本の構成についてご説明いたします。

資料下段に記載のとおり、2026年度末時点の投下資本は、加工食品事業で約1,600億円、食肉事業で約2,900億円、その他事業で約100億円となり、合計では約4,600億円となる見込みです。

このうち、食肉事業の投下資本約2,900億円の半分強は、本件を含む海外事業向けの投資となります。

その結果、事業ポートフォリオとしては、「加工食品事業」「国内食肉事業」「海外食肉事業」の3領域に対して、それぞれおおむね3分の1ずつ資本を配分する構成になると考えています。

私からの説明は以上です。ありがとうございました。